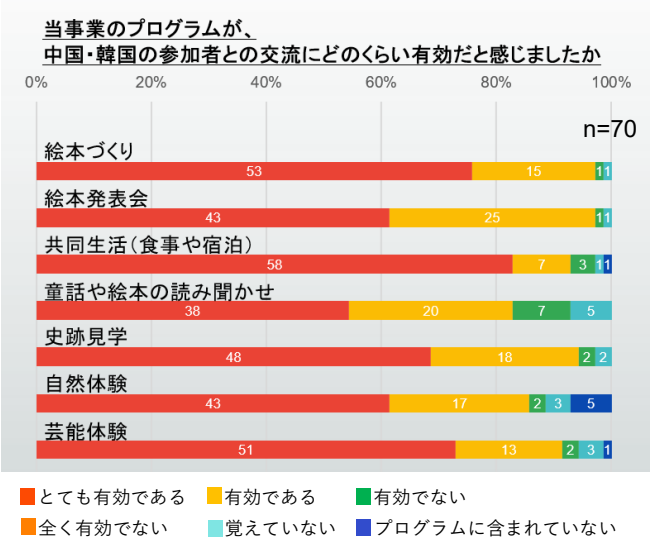
National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構　「体験の風をおこそう」運動®　2021 年 3 月

日中韓子ども童話交流事業
日本人参加経験者に係るフォローアップ調査

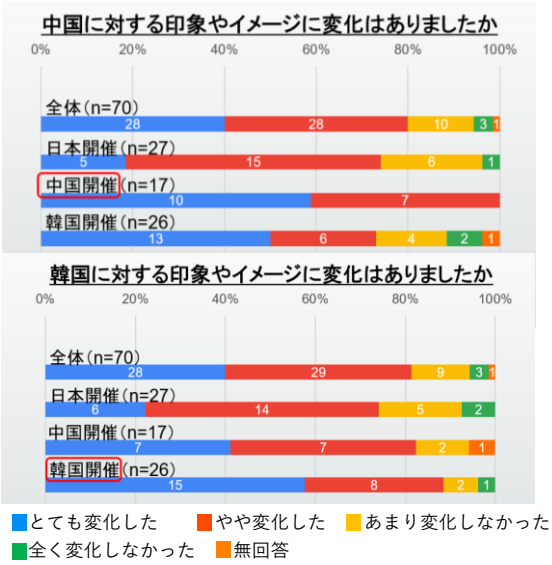
当機構では、日本、中国、韓国の子ども達が一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知るとともに、一緒に語り合い協力して創作絵本を作成することで、3 カ国の文化の特徴や共通性、違いなどを知り、相互に友情を深めるために、平成 14 年度より当事業を実施してきた。本調査では、過去の参加者の実態等を把握し、今後の業務及び事業企画の参考とすることを目的として、過年度参加者を対象にアンケート調査を行った。

Ⅰ プログラムの有効性



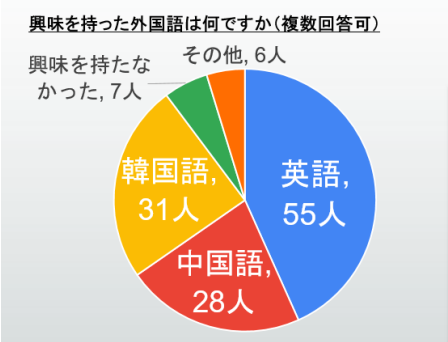
・7 項目すべてにおいて「とても有効である」「有効である」の割合が 80%を占めている。
・その中でも、「共同生活」や「絵本づくり」については、75%以上の参加者が中国・韓国の参加者との交流に「とても有効だった」と回答している。

Ⅱ 参加前後の中国・韓国に対するイメージの変化



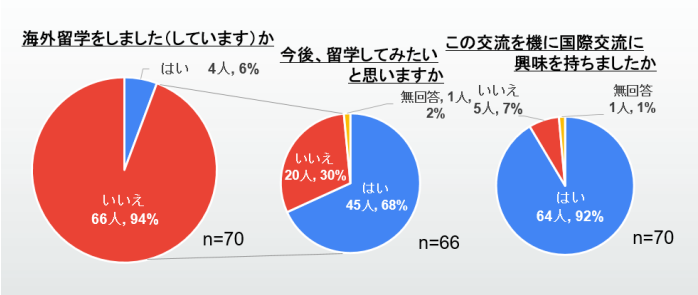
・中国、韓国に対するイメージについて、ともに「とても変化した」「やや変化した」と回答した割合が全体の 80%を占めている。
・中国や韓国で開催した場合、それぞれの国に対するイメージの変化がより顕著に表れる結果となった。

Ⅲ 外国語の学習



・参加者の多くが興味を持った外国語として「英語」と 55 人が回答している。当事業の外国人参加者の母国語である「中国語」、「韓国語」にも興味を持った日本人参加者が一定以上それぞれ 28 人、31 人いる。
・また、資格取得にも積極的な姿勢がうかがえる。

Ⅳ 海外留学および国際交流



海外留学経験者は、4 人（6%）であり、未経験者の 66 人のうち、45 人（68%）が「今後留学してみたい」と回答しており、意欲を示している。回答者のうち、64 人（92%）が当事業参加を機に「国際交流に興味を持った」と回答している。

【調査の概要】
平成 23～29 年度（26 年度を除く）の参加経験者のうち、182 人を調査対象者とした。そのうち、12～21 歳の 70 人（男性：34 人、女性：36 人）から調査票を回収した（回収率：38.4%）。
調査期間は 2020 年 12 月 5 日(土)～ 2021 年 1 月 8 日(金)で、調査対象者に調査への協力依頼文書を郵送し、Web での回答を依頼した。